

第1回 北海道大学教授(メディア・コミュニケーション研究院) **筑和正格**
 昭和44年国際基督教大学教養学部卒業、昭和48年慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程中退。同年北海道大学文学部講師、昭和55年助教授、昭和59年北海道大学言語文化部助教授、平成6年教授、平成19年北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授。その間、言語文化部長(平成11-13年)、大学院国際広報メディア研究科長(平成14-18年)を歴任。専門は都市地域社会文化論。

第2回 北海道大学教授(文学研究科) **藏田伸雄**
 昭和62年京都大学文学部卒業、平成元年同大学大学院文学研究科修士課程修了、平成6年同研究科博士課程研究指導認定退学。日本学術振興会特別研究員、三重大学人文学部専任講師、同助教授を経て、平成13年北海道大学大学院文学研究科助教授、平成21年より現職。専門は応用倫理学(生命倫理、環境倫理、科学技術倫理)及び規範倫理学・メタ倫理学、西洋哲学史。バイオテクノロジーに伴う倫理問題、持続可能性と環境倫理に関する問題に取り組んでいる。

第3回 北海道大学教授(農学研究科) **佐野芳雄**
 昭和45年北海道大学農学部農学科卒業、昭和50年同大学大学院博士課程修了。国立遺伝学研究所・研究員、助教授を経て、平成7年より現職。その間、昭和55年～56年イリノイ大学研究員。専門は植物育種学、植物遺伝学。世界中から採集したイネを用いて、有用遺伝子を探索・利用するとともに、系統進化・栽培化課程について研究を行ってきた。

第4回 北海道大学教授(工学研究科) **杉山隆文**
 昭和61年北海道大学工学部土木工学科卒業、平成6年ニューブランズウィック大学大学院博士課程修了、群馬大学工学部助手、同大助教授を経て平成18年より現職。専門はコンクリート工学、土木学会コンクリート標準示方書(設計編)、同[施工編]、同[維持管理編]、同[基準編]コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針(日本コンクリート工学協会)など、関連学協会から発刊される多数の指針やガイドラインの作成委員を歴任。

第5回 北海道大学教授(情報科学研究科) **渡邊日出海**
 昭和63年東京理科大学理工学部応用生物科学科卒業。平成5年同大学大学院博士後期課程退学。博士(理学)。国立遺伝学研究所研究員、米国立衛生研究所博士研究員、理化学研究所研究員、奈良先端科学技術大学院大学助教授を経て、平成16年度より現職。専門はゲノム生物学。大学院から一貫してゲノム研究に携り、理研でヒトゲノムプロジェクトおよびチンパンジーゲノムプロジェクトに参加。現在は生物進化と地球史の関係の解明や深海底の新種探索などを行っている。

第6回 北海道大学教授(経済学研究科) **吉見宏**
 昭和60年九州大学経済学部卒業、平成2年同大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得、同年日本学術振興会特別研究員、平成3年北海道大学経済学部講師、平成5年助教授を経て、平成16年大学院経済学研究科教授。専門は監査論、公会計論で、著書に『企業不正と監査』税務経理協会、『ケースブック監査論』新世社、『監査期待ギャップ論』森山書店などがある。博士(経営学)。

第7回 北海道大学教授(薬学研究科) **原島秀吉**
 昭和56年3月東京大学薬学部卒業、昭和60年10月東京大学薬学系大学院薬学専門課程博士課程退学、昭和60年10月東京大学薬学部助手、昭和62年6月薬学博士(東京大学)、昭和62年7月スタンフォード大学医学部麻酔科へ留学(学術振興会海外特別研究員2年間)、平成元年7月徳島大学薬学部助教授、平成11年7月北海道大学大学院薬学研究科教授、医療薬学講座・薬剤分子設計学分野を担当、平成21年4月未来創制学研究室を兼任。細胞内動態制御に基づいた人工遺伝子デリバリーシステムの開発、多機能性エンペロー型ナノ構造体(MEND)の創製

第8回 北海道大学教授(保健科学研究科) **佐藤洋子**
 看護師免許助産師免許取得後4年間病院助産師として勤務。昭和58年北海道大学医療技術短期大学部助手、講師、助教授、医学部保健学教授を経て平成20年より現職。この間平成3年在外研究員としてワシントン大学看護学部、平成14年北海学園大学大学院後期博士課程を単位修得修了。専門は小児看護学で、小児医療におけるリスクマネジメント、小児と家族の意思決定を支える看護スキルの構築などの研究に取り組んでいる。

平成21年度
 北海道大学公開講座

現代社会と倫理

— 安全・安心なくらしを実現するために —



受付期間

平成21年6月9日(火)～平成21年6月24日(水)
 9:00～17:00(土曜、日曜を除く)

実施期間

平成21年7月2日(木)～平成21年7月30日(木)

会場

北海道大学情報教育館
 3Fスタジオ型多目的中講義室
 札幌市北区北17条西8丁目

主催 北海道大学
 後援 札幌市教育委員会

申込場所

北海道大学高等教育機能開発総合センター1階 6番公開講座窓口

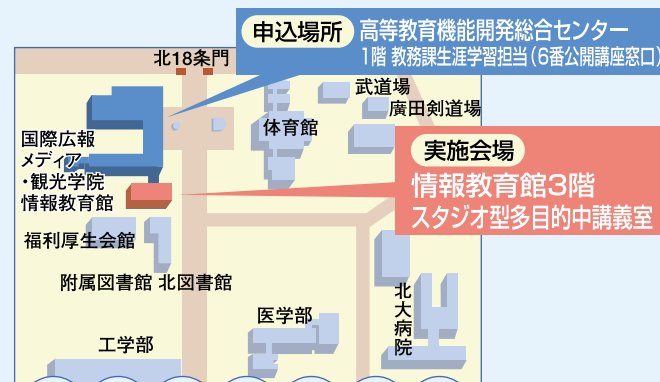
実施会場

北海道大学情報教育館3F スタジオ型多目的中講義室

札幌市北区北17条西8丁目

地下鉄「北18条」駅下車徒歩9分(約500m)

中央バス「北18条西5丁目」下車徒歩7分(約400m)



■駐車場狭陰のため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北18条門から入構願います。その際、自動発行機から臨時入構券が発券されますので、公開講座受付担当者から、必ずチェックを受けてください。チェックがなければ出構できません。駐車場は高等教育機能開発総合センター北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、センター北側駐車場へは通り抜けできません。)。なお、出構時に入構料金として300円を徴収いたしますのでご了承ください。

シ
 リ
 ト
 キ

郵便振替払込
 受付証明書

貼付欄

必ず郵便局・銀行
 等の窓口で振り込
 みください。

現代社会と倫理 —安全・安心なくらしを実現するために—

講座内容	米国のサブプライム問題に端を発した不況、建築偽装や食品の安全性をめぐる問題など、私たちの暮らしを脅かしている問題の根底には、現代社会において倫理問題が厳しく問われているという事実があります。本公開講座では、科学技術の発展やグローバリズムの深化のなかで、私たちが安全・安心な生活を実現するために、どのように対応していくべきなのか、現代社会と倫理をキーワードにして多面的に考えます。
受講資格	18才以上の方であればどなたでも受講できます。(学歴等は問いません)
受講料	5,000円(既納の受講料はお返しできません。)別添の「振込用紙」により振込みください。なお、郵便振替払込受付証明書は、受講申込書の裏面に貼り付けて提出してください。
特定講義の受講	8回シリーズの講義のうち、席に余裕がある場合には、特定の講義の受講も受け付けますので、希望される方は問い合わせ先までご連絡ください。 (特定の講義の受講を希望する場合 1回 1,500円)
定員	100名程度
修了証書	6回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。

道民カレッジ	本講座は道民カレッジの連携講座として指定されています。(環境生活コース・16単位)
申込期間	平成21年6月9日(火)～平成21年6月24日(水) 9:00～17:00(土曜日、日曜日を除く。)特定の講義の受講を希望する場合には、希望する講義開催日の3日前までにご連絡願います。
申込手続	申し込みは、事前に下記の「問い合わせ申し込み先」に電話連絡により定員の超過の有無を確認の上、直接又は郵送で行ってください。 ◎直接申し込む場合は、受講申込書の裏面に郵便振替払込受付証明書を貼付して申し込んでください。 ◎郵送で申し込む場合は、受講申込書の裏面に郵便振替払込受付証明書を貼付し、240円切手同封(テキスト及び受講者証等の郵送料分)の上、書留便にて郵送してください。 注)受講料は、必ず郵便局又は銀行等の「窓口」で振り込みの手続きをしてください。 ATM(現金自動預払機)は使用できません。また、普通為替や現金では受理できませんので注意願います。
問い合わせ申し込み先	北海道大学学務部教務課(教務情報システム担当) 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育機能開発総合センター1階6番公開講座窓口(裏面の略図を参照してください。) ◎電話(011)706-5429(直通)

(講義時間は毎回午後6:30～8:30)

日程	講義題目	概 要	講 師
第1回 7月2日(木)	「リスク社会」を知る	現代社会の特質を表す1つの有力な概念として「リスク社会」というものがある。近代化の進展過程で、科学・技術の発展を通じて、人間社会は貧困や病苦という宿敵と戦い打ち負かしてきたが、その反面、科学・技術の発展は、社会自体を蝕み変形させる「副作用」=リスクも同時に生み出してしまった。このリスク社会の実態と、リスク社会において倫理は意味をもちうるか否かについて考察を加えていく。	メディア・コミュニケーション研究院 教授 筑 和 正 格
第2回 7月6日(月)	リスクの社会倫理	便益の分配は必ずしも公平になされているわけではなく、環境リスクを始めとしたさまざまなリスクも、社会的弱者に課せられる傾向がある。それは社会的不平等に由来するものでもあるが、専門家や行政の持つ知識や情報と市民のもつ知識や情報との格差にも由来する。様々な権利を保護し、弱者へのしわよせを回避する必要があるが、そのためにはどのような民主主義が適切かを講じる。	文学研究科 教授 藏 田 伸 雄
第3回 7月9日(木)	農業に内在する倫理性	物質的豊かさを享受する現代においても、農業は人間の生活の根源を支えるものと理解されてきた。効率的な農業生産が、安全・安心な食料を安定供給するために加速してきた現在、私達は、人口増加・格差社会・環境変動など多くの問題を抱えている。農業は環境にやさしいのか?何故、人は農業を始めたのか?これまで、あまり語られてこなかった農業に内在する倫理性について考えたい。	農学研究院 教授 佐 野 芳 雄
第4回 7月13日(月)	循環型社会における安全・安心な社会基盤構造物	防災、都市再生、生活環境、国土保全、交通輸送などに資する社会基盤構造物は、莫大な予算の下、多量の資材、人材、時間をかけて構築される。循環型社会や少子高齢化社会に対応した社会基盤構造物の設計、施工はどうあるべきか、技術的な解決策はどのようなものかについて、建設基幹材料であるコンクリートを使用する場合について述べる。また、大更新時期を向かえる社会基盤構造物をどのように延命させ、使いこなしていくかについても述べる。	工学研究科 教授 杉 山 隆 文
第5回 7月16日(木)	遺伝情報と倫理・社会問題	犯罪捜査、無実の証明、親子判定、出生前検査、遺伝子診断、医療などにおける遺伝情報の利用が我々に多様な恩恵もたらしている。その一方で、遺伝情報の利用の広がりは、社会のこれまで見えなかった様々な問題を顕在化させつつある。また、遺伝情報が持つ詳細な生物学的意味が解明されるにつれて、遺伝情報の管理と利用を各個人の問題として放置しておくことの危険性が指摘されるようになってきている。そのような遺伝情報の社会との係わりについて考察する。	情報科学研究科 教授 渡 邊 日 出 海
第6回 7月23日(木)	企業不正と倫理	景気が悪くなると、好景気の時には見えなかった経済のひずみが見える。企業不正、不祥事はその典型である。その多くは、企業やその経営者の倫理観が保持されていれば防げたはずのことであった。一方で、企業を監査する会計専門職にも、高い倫理観が求められている。ここでは、いくつかの企業不正の例を取り上げながらその倫理的側面について、会計・監査の立場から検討していく。	経済学研究科 教授 吉 見 宏
第7回 7月27日(月)	創薬開発と生命倫理	薬は諸刃の刃である。副作用のない薬はなく、一般に、良く効く薬は危険性も高い。創薬産業は、ハイリスクハイリターンで、生産コストも非常に高い。新薬開発には10年以上の歳月を要し、大手製薬会社は1000億円に及ぶ開発費を投入している。このような状況の中、創薬に携わる研究者や開発者にはどのような生命倫理観が必要なのか、大きな問題となっている。私は薬を専門とする研究者であると同時に教育者であり、「薬害と生命倫理」について生命科学院で講義を行なっている。今、薬の世界で問われている倫理観について皆様と一緒に考えてみたい。	薬学研究院 教授 原 島 秀 吉
第8回 7月30日(木)	看護と倫理：患者・家族の生活の質を支えるために	近年の高齢化社会の到来、医療機関での入院期間の短縮や高度先進医療の発展と機能分化が進む中で、ケアを必要とする人々のニーズが多様化している。このような人々の生活を支えるために、専門職として看護職が提供する看護活動には、高度な知識と看護実践能力に加え、「倫理綱領」をはじめとする看護師の高い自律性が不可欠である。そこで、今日看護職が直面する倫理的問題と看護倫理について考察する。	保健科学研究科 教授 佐 藤 洋 子

平成21年度 北海道大学公開講座 受 講 申 込 書

ふりがな	年代
氏 名	(_0歳代) 男・女
〒	
現住所	
TEL ()	-

(アンケート) 下記の該当する部分に○をつけて下さい。

問1. あなたはこの講座をどのようにして知りましたか。

1. 新聞
 2. 受講案内(直接送付されたもの)
 3. 受講案内(公民館に置いてあったもの)
 4. 受講案内(図書館に置いてあったもの)
 5. 受講案内(ふれあい広場に置いてあったもの)
 6. 受講案内(「ちえりあ」に置いてあったもの)
 7. 道民カレッジガイドブック
 8. 友人・知人からの誘い
 9. その他()

問2. この講座の受講についてどなたかを誘われましたか。

1. 友人 2. 知人 3. 家族 4. その他

問3. 誘った結果はどうでしたか。

1. 申し込んだ 2. 申し込まなかった 3. わからない

問4. あなたは過去に公開講座を受講したことがありますか。

1. ある 2. ない

問5. 問4で「ある」と答えられた方にお尋ねします。

1. 北海道大学の公開講座を受講したことがある
 2. 北海道大学以外の公開講座を受講したことがある
 3. 両方の大学の公開講座を受講したことがある

問6. あなたは道民カレッジの学生になっていますか。

1. はい 2. いいえ

問7. 今後も受講案内の送付を希望しますか。

1. はい 2. いいえ

日付	番号
----	----

※申込書に記入した個人情報は本学の行事等の案内以外には利用いたしません。